

第2回 駅まちづくりセミナー

「まちなか広場の可能性を探る」

令和5年1月23日（月）に、松山市駅やJR松山駅の整備で新たに生まれる「駅前広場」が、より楽しく・多くの人で賑わう場所になるため、全国各地で取り組まれている「居心地の良い広場づくり」を学ぶ「駅まちづくりセミナー」を開催しました。

第2回のセミナーでは、「カミハチキテルの活動 - 社会実験とカミハチミライデザイン -」をテーマとして、山中佑太氏に広島市の紙屋町・八丁堀エリアで活動する「カミハチキテル」の発足から社会実験、組織運営の仕組みを紹介していただきました。

その後の意見交換では、参加者の皆様から実践的な質問や意見をいただき、より具体的に広場活用と運営を考えるきっかけとなりました。

開催概要

開催日時	令和5年1月23日（月） 14：00～16：00	
開催場所	センタービル4階 第1会議室 & オンライン「Zoom」	
主催	松山市／一般社団法人松山アーバンデザインネットワーク	
参加人数	会場	17名
	Zoom	最大8名



プログラム

- 14：00～14：05 ・開会挨拶
- 14：05～15：10 ・講演（山中氏）
カミハチキテルの活動
- 社会実験とカミハチミライデザイン -
テーマ1：カミハチキテルの概要
テーマ2：多様なプレイヤーと多様な資金調達方法
テーマ3：ミライ志向型のビジョン
- 15：10～15：15 ・休憩
- 15：15～15：55 ・参加者と意見交換（会場のみ）
- 15：55～16：00 ・今後の予定、閉会挨拶

講師



山中 佑太

一般社団法人地域価値共創センター(COC)理事 / 統括マネジャー

NTT都市開発ビル事業本部、多治見TMO、豊島区都市計画課、リビタ地域活性化ホテル準備室を経て、2016年広島にUターンし、リバトルで持続可能な都市や地域づくりを掲げてCOCを立ち上げ現職。カミハチキテルや広島都心会議の発足や事業推進に携わる。

BEFORE



AFTER



道路空間を“53mの国内最大級パークレット空間+コンテナ店舗”に

広島市に位置する相生通りは魅力的な観光資源を有しているにも関わらず、回遊性が低く、歩行者は本通り商店街へ極集中しているという課題があった。そこで相生通りを第2の回遊軸に育てるべく、カミハチキテルの社会実験で相生通りの将来像を仮説的に見える化したところ、空間の質とアクティビティが劇的に変化し、多くの人で賑わう魅力的な空間へと進化した。

カミハチキテルの社会実験の裏側とは… [裏ページへ](#)

◆ テーマ1：カミハチキテルの概要

“車を捌くための道”から“歩行者が憩い、出会いが起こる道へ”

魅力的な観光資源がある一方で歩行者の回遊性が低い相生通りを、本通り商店街に次ぐ第2の回遊軸に育てることを目的に、2020年3月に相生通りの将来像を仮説的に見える化する社会実験を実施しました。実験では、元々バス停の切り込みだった空間をウッドデッキの空間(写真右上)へ変えるなど、自動車中心の道路空間を歩行者が憩い、出会いが起こるストリートに変貌させました。実験は大変好評で、関係者や広島市の方のこういった取り組みを続けていこうという意向もあり、同年5月にエリマネ団体「カミハチキテル」を正式に発足しました。そして2021年1月、アフターコロナの都市空間をテーマに第2回社会実験を実施しました。当時言われていたソーシャルディスタンスを意識し、人工芝を点々と敷きその上に屋外で使える家具を置き“通り過ぎる広場”からコロナ禍で安心安全に“過ごす”まちのリビングへと変貌させました(写真右下)。

◆ テーマ2：多様なプレイヤーと多様な資金調達方法

カミハチキテルの最初の社会実験の資金は一部行政資金もありましたが、9割以上が民間資金でした。民間資金は寄付金・協賛金やクラウドファンディング、現物出資など多様な方法を組み合わせて幅広く調達しました。現物出資では、広島県木材組合連合会様が非常に協力的で、ウッドデッキの材料を提供していただき、広島県産の材料を多用し社会実験としては非常に高質な空間が実現しました。また、空間だけではなく実際に楽しめる中身がなければ賑わいは生まれないと考え、空間にコンテナやキッチンカーを置きました。ただし、ずっと同じ店があるのではなく1日に2回出店者を入れ替える「日替わりコンテナ」としました。付近で勤めている人たちに「あそこに行くといつも違う店がある」と興味を持っていただき、お目当てに来られる方も多数いました。出店者は固定のお店を持たない方がほとんどでしたが、コンテナの出店がきっかけでメディアに取り上げられ、実際にお店をオープンした方もいました。

◆ テーマ3：ミライ志向型のビジョン

完成することが目的ではなく、常に更新し続けるもの

カミハチミライデザインという将来ビジョンの実現に向けて、まちづくりのルールを定めたデザインガイドラインを策定しています。ビジョンでは、相生通りのトランジットモール化に向けて、松山市の花園町通りと同じように道路空間の再編を計画しています。もちろんトランジットモール化には賛成も反対意見もあります。そこで“ビジョンは決して不変なものではなく、明日どんなことが起きるかわからない時代に対応していくために、日々みなさんと話をしながら更新していくもの”として共有しています。



歩行者が憩うウッドデッキ

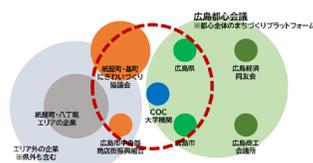


点々と敷かれた人工芝と家具



日替わりコンテナ

エリアプラットフォーム「カミハチキテル」



相生通りのトランジットモール化

- 広島では社会的課題に向けたビジョンを作っているということですが、その中に脱炭素化やSDGsなどの環境分野についての考え方は取り込まれているのでしょうか。また、行政の環境分野との連携はあったのでしょうか。
- ▶ 広島大学の環境専門の先生に監修していただきながら未来ビジョンの中に環境分野について記載しています。行政の環境分野とはこれから連携していきたいと考えています。
- 寄付金や協賛金はこういった関係者から出資いただいているのでしょうか。
- ▶ 紙屋町・八丁堀沿線の方からも、エリア外の方からも出資いただいています。最初は繋がりのある人全員に声をかけ、協力者を探しました。そして取り組みがメディアで取り上げられるようになったこと、また前向きに企業さんと協力して取り組んでいるというプレゼンをしていただくこともあり、色んな企業から「上手くコラボして、まちで何かできるんじゃないか」と思われ「話を聞かせて欲しい。」と、新たな協力者が見つかることもあります。
- カミハチキテルの社会実験に至るまでの母体となった組織はもともとどのような組織だったのでしょうか。
- ▶ 元々の母体は勉強会でした。そして勉強会へ色んな方が入っていただき、その中で社会実験に賛同できる人たちによって実行委員会を組成しました。
- 勉強会はどういった母体でスタートしたのでしょうか。
- ▶ 紙屋町・基町にぎわいづくり協議会、広島市中央部商店街振興組合が母体となりました。商店街振興組合の専務理事がキーパーソンで、商店街をしっかりまとめられていて、非常に良いつながりでスタートしました。
- 全国に様々なエリマネジメント活動があり、その多くが行政資金に頼った資金調達をしていると思います。その中でカミハチキテルでは民間の財源を主として収支を回し活動していますが、その理由はあるのでしょうか。
- ▶ 行政からなかなか資金を調達できなかったこともありますが、やはり民間が出資しているので色々な活動を民間主導で行いやすくなるということは重要であったと思います。